

職場における交通安全指導 Part.1

交差点の安全な通過方法～右折時の安全走行～

交通事故の約6割が、交差点とその付近で発生しています。まさに交差点は交通事故が発生しやすい危険ゾーンといえます。

今回は交差点走行のなかでも最も注意を要する右折時の安全走行を取りあげます。

交差点での右折は、対向直進車の流れを横切ることが多く、適確な状況判断と正しい運転操作を行うことが大切ですので、右折時に心掛けるべきポイントを指導してください。

右折時には対向車との衝突事故がよく起こります。

この事故は、右折車が、対向車の流れに少しでも余裕ができれば右折しようとする焦りから、対向車を見落とししたり、まだ間に合うだろうと判断して強引に右折していくことに原因があります。

直進車優先のルールを守り、対向車が接近しているときは無理をせず通過を待つ心のゆとりが安全な右折の基本です。

また、対向右折車がいる場合は対向車線の状況がよく見えないため、十分な安全確認をしてから右折するように指導してください。(図1)

近年、右折トラックと対向直進二輪車の衝突事故、いわゆる「右直事故」が多発傾向にあります。(図2)

この事故は、トラックが小さい二輪車を見落とししたり、スピードを実際よりも遅く感じたり、先に右折を開始すれば二輪車が進路を譲ってくれるはず、という判断ミスによっています。

一方二輪車のドライバーは、近くの路面を見つめて走っており前景を広い範囲にわたって視野に含めることができません。また、自分が直進で優先権があるからとスピードを落とさずに進入するためこのような事故が起こります。

交差点右折時は、二輪車を意識して見つけ出すといったことを心掛けるように指導してください。

交差点が渋滞しているため、対向車が停止し道を譲ってくれたので右折したところ、停止車の陰から飛び出してきた二輪車や乗用車と衝突する事故「サンキュー事故」の多くは、対向車の「先に右折せよ」という合図を、「右折しても安全だから行け」と誤解して、一気に右折することから発生しています。

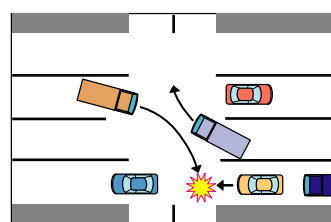
右折車は、停止車の陰で見えない部分にも目を配り、二輪車等直進車がないことを自分の目で確認した上で、右折を開始するように指導してください。(図3)

対向車との衝突事故はまぬがれたとしても、「今なら右折できる」と慌てて一気に右折をしたために、横断歩道の歩行者を見落として接触するという重大事故も発生していますので、歩行者、自転車等の状況を十分にチェックするように指導してください。(図3)

ほとんどの右折事故は、「今なら右折できる」といった焦った気持ちで右折した時に起きています。右折は「タイミングをはかってすばやく」ではなく、「ゆっくりした操作で右折できるようになるまで待て」を徹底してください。

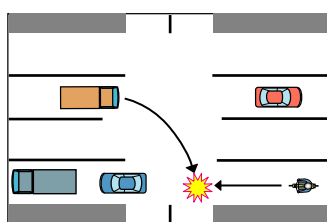
特に対向二輪車を見落としていないか、細心の注意を払って右折することがポイントです。

図1 右直事故 - 交差点中央付近で右折待機中 -



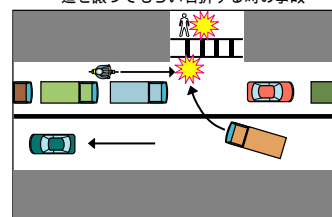
- 1対向右折車がいる場合には、双方の車が死角を作ってしまう。
- 2直進車が途切れても、一気に右折するのは危険である。
- 3ゆっくりと車の頭を出し、首を伸ばして対向車の有無を確認する。

図2 右直事故



- 1右折時に、直進二輪車を見落とさないこと
- 2二輪車の速度は低く見積もって、強引に右折してはいけません。

図3 サンキュー事故
-道を譲ってもらい右折する時の事故-



- 1対向車の死角に二輪車がいるものと思い、自分の目で安全確認し一気に右折しない。